平成 29 年度(2017 年度)
日本特別活動学会　第４回　実践事例募集事業

優　秀　推　奨　事　例

事例番号　４－２

特別活動を柱にした学校活性化の試み

八王子市立弐部方小学校　　清　水　弘　美

実践テーマ	特別活動を柱にした学校活性化の試み
実践区分 ○囲み	学級活動・ホームルーム活動　児童会・生徒会活動　クラブ活動　学校行事 その他（具体的に、　　）
実践事例の背景、ねらい、意義など	≪実践事例の背景≫ 平成 24 年度に校長として赴任した八王子市立弐分方小学校は、子ども達の自己肯定感は低く、教師も自分たちの仕事に誇りが持てず、学級崩壊もあり、学校崩壊寸前の状態であった。特別活動を徹底的に行うことで、学校改善を目指すことにした。 ≪ねらいと方法≫ ・話合い活動の徹底 すべての学年・学級において、「話合い活動」のやり方を統一し、定期的に話し合いの機会を持つようにした。自分たちで意見を出し合って、よりよい学校生活を作る経験を重ねることで、話し合いの技術が、「児童会におけるたてわり活動」「委員会活動」「クラブ活動」に伝播するようにした。 ・メンバー固定の異学年交流（以下、たてわり活動）の徹底 児童会におけるたてわり活動（全校児童）・委員会活動（5～6 年生）・クラブ活動（4～6 年生）ではメンバーを固定し、「高学年への憧れと低学年への思いやり」の人間関係を構築するとともに、委員会やクラブ活動などの「やり方」を下級生に伝え、毎年バージョンアップしていけるようにした。 ⇒児童にとって「楽しい」「人の役に立てる」活動を数多く設ける ⇒児童が主体的に学校生活づくりの活動に参画するようになる ⇒児童の汎用的能力の向上（主体的・対話的で深い学び）を目指す試みである。
実践の時期	平成 24 年 4 月～平成 30 年 3 月

【実践事例】(成果と課題を含む)

（１）話合い活動の徹底

「話合い」は主体的な学校づくりへの参加の土台である。１年生から６年生まで、全クラスで話合いの方法を統一して、学級活動の時間に「話合い」を行った。「話し合い」の進め方・ルールは以下の通りである。

≪話合いの方法≫

・計画委員会は生活班での持ち回りとする。(⇒全児童が司会班を経験できる。)
・司会班は、司会・副司会・黒板書記・ノート書記の 4～5 名とする。
・最初に副司会が「話合いの提案理由」と「話し合いの柱（2 本)」について発表する。
・「だしあう」: できるだけ多くの提案を出す。必ず提案理由もつけて発言する。
・黒板書記はラミネートされた短冊にホワイトボードマーカーで意見を書いて黒板に貼っていく。
・「くらべあう＆まとめる」:「折り合いをつける」ことを大切にする。安易な多数決やディベートで決めない。
　例）折り合いの付け方　「カレー」と「かつ」が食べたいという意見があった時
　　＊今日は、カレーを食べて、明日はかつにする。(順番型)
　　＊小さなカレーと小さなかつを両方食べる。(並列型)
　　＊かつカレーにして一緒に食べる（統合型）
・「折り合いをつける」根拠となるのが、「学級目標」と「話合いの提案理由」である。
　⇒学級目標や提案理由に近い「提案」や「提案の根拠」が説得力を持つことになる。
・決めたことは、役割分担をして協働しながら、徹底的に実現させる。
・教師はできるだけ影をひそめていながらも、進行がずれたり、児童の決定できる範囲を越えたり、人権的に問題があると判断したなど、必要に応じて助言をする。

≪成果≫

・自分の意見を、理由を添えて表明できるようになった。(⇒言語活動の充実)
・相手の意見や思いを受け止め、違う意見でも「認め合い」「折り合う」力がついた。
・話合いの技術を他の場面、（授業・児童会活動・委員会活動・クラブ活動など）で生かすようになった。

（２）たてわり活動の徹底

たてわり活動は、異年齢の子ども達に「支え・支えられる」温かい人間関係を育み、クラスと共に児童の大切な居場所となる。特に上級生は、クラスでは自分の良さを発揮しづらい児童であっても最高学年としての役割を期待されるため、リーダーシップを発揮したり、自分のよさを再発見したりするよい機会となる。「たてわり活動」の諸相は、①児童会活動の一環としての「たてわり活動」、②クラブ活動、③委員会活動に見られる。順にやり方とその成果について紹介したい。

① 児童会活動の一環としての「たてわり活動」

≪やり方≫

・全児童を 15 グループのたてわり班に分ける。（１グループに同学年は１～３人）
・メンバーは 6 年間固定（メンバーの入れ替えはしない)。
・教師は２つのたてわり班の担当をする。
・水曜日の朝の１５分間はたてわり班活動をする「いいなタイム」。
・月に１度、たてわり班で話合いの時間をもち、どんな遊びをするか話し合う。
・決まったことを、あとの 3～4 回の「いいなタイム」で実現。
・学校行事（全校遠足や運動会）もたてわり班を生かしたグルーピングとする。
・準備が必要な場合、休み時間を活用して準備する。

≪成果≫

・6 年生全員がリーダー経験をすることができ、自分のよさを再発見する機会となった。
・上級生に思いやりと責任感が育つ。(下級生の不祥事は上級生の責任という意識が芽生える)
・下級生は上級生に憧れをもちながら成長する。憧れが最高学年になったときの頑張りの原動力になる。
・児童の居場所となる。学校が楽しい場所になる。

② 委員会活動

≪活動方法≫

・委員会所属は 2 年間固定（どの委員会にはいっても学校のために働けるから大丈夫)。
・5 年生は 6 年生の活動方法をみて、委員会活動の仕事の基礎を覚え、自分が 6 年生になったときにはその基礎に「工夫と応用」を加えて、より全校児童のため、学校のためになる活動としていく。

・どの委員会も「みんなの役に立てている」と思えるような活動を、工夫して、実施する。
（輝けていない委員会があれば、教師が助言する。）
・「わが委員会こそみんなの役に立てていたい」と他委員会への競争意識も生じ、活動が活性化していく。

≪成果≫
・委員会活動は児童の教え合いと話合いで進んでいく（教師が音頭を取る必要がなくなる）。
・「みんなの役にたてている」感覚が、児童のやる気を高め、ますます活動が活性化する。
・委員会が活性化すると児童主体で「よりよい学校生活を作り出す」文化が生まれ、学校自体が活性化する。

③ クラブ活動

≪やり方≫
・クラブ所属は4～6年の3年間固定を奨励する。
・年度末に行われるクラブ発表会で、3年生は自分の入りたいクラブを決める。
クラブ発表会は日ごろの練習の成果を発表する場であるだけでなく、次年度の参加者勧誘の意味ももつ。
・4・5・6年生の全学年からそれぞれ一定人数以上の参加者がいれば、新しいクラブを立ち上げ可能。
（教員の得意分野でクラブ活動の種類を決めるのではないことに注意！）
・メンバー一覧表もあり、新4年生はその一覧を見ながら、4月の1か月に自分の所属するクラブを決める。
・クラブ活動は児童の教え合いと話合いで進んでいく（教師が指導しなくてもよい）。
・全校児童が通る廊下に、クラブ活動連絡黒板を設置し、クラブ活動に関する連絡のやり取りがなされる。
・クラブ活動は自分がやりたことをやれる楽しい場である。学校自体が楽しくなる。

（3）学校長が特別活動のムーブメントを起こすうえでのコツ

特別活動を柱として学校改革・学校経営を進めていく上で、教職員と保護者の協力は不可欠である。

≪教職員との協力について≫
・「自己流特活は禁止！」
核となる教師を中心に、学び合うことで、弐分方小学校の特活の「型」を作り、徹底する。
例）核となる教師が「特活通信」を出す。お互いに授業参観する。
・教師の得意を生かした適材適所。
例）動画編集の得意な教師には、学校紹介ビデオや学校行事の感動ムービーを作り、活躍してもらう。
・マスコミや研究者からの注目を積極的に利用する。
教職員に「世界一流の実践をしている」という自負を持ってもらう。⇒自信とやる気が高まる。
・学校行事の成功を児童とともに喜び合う成功体験の積み重ね。
児童ともに「苦楽しい」ことを乗り越え、感動の涙を流す。⇒教師冥利に尽きる瞬間。自信とやる気に。
・教師一人一人の応援団。
すべての教師はそれぞれ良さと思いがある。
保護者トラブルの際も、それを代弁し、絶対的に守れる校長であることが大切である。
週案には一人一人丁寧に、ポジティブなコメントを書き入れる。
学期末には成績票にその学期に活躍した面を取り上げ評価と感謝を添える。

≪保護者との協力について≫
・校長室だより（親ばかのすすめ）を発行し、校長の思いや学校のやろうとしていることを発信して理解を得る。
・校長室をいつでも保護者が訪れることのできる場所とする。（保護者の本音を聞く）
・学校をいつでも保護者が訪れることのできる場所とする。（ボランティアも歓迎）。
・マスコミに注目されたり、他校から注目されたりすることで、学校への信頼感が増す。

（4）6年間の実践の成果

「特別活動」を徹底的に行うことで学校改善を目指す試みは成果を上げることができた。それは以下の2つのデータにより明確である。

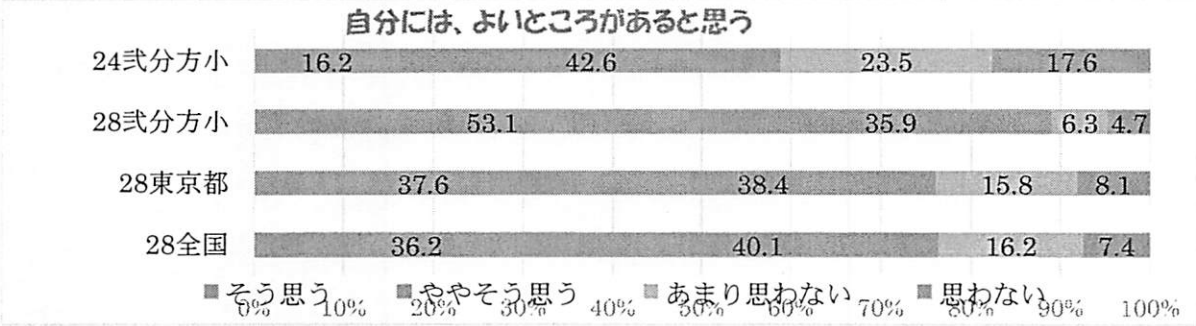
① 世界9か国からの視察団の受け入れ。全国各地からの視察の受け入れ。
② 全国学力・学習状況調査等のデータより（次ページ参照）

おわりに:

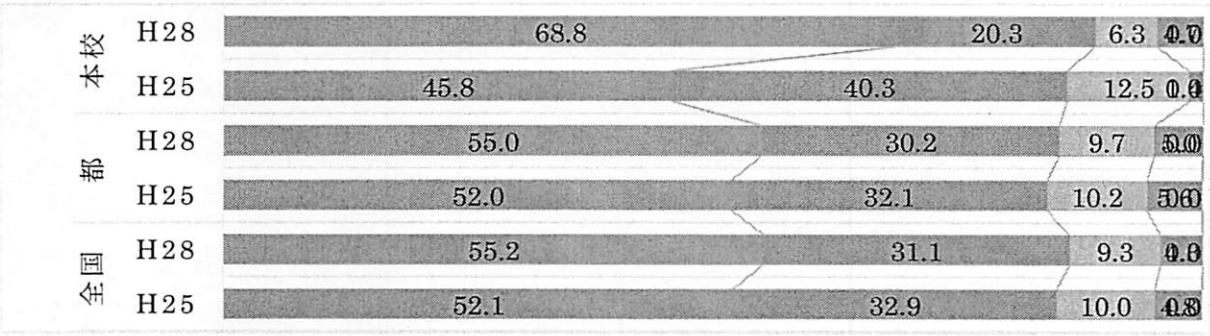
本実践は八王子市立弐分方小学校の全教職員と児童による成果である。ここに記して感謝の意を伝えたい。
さらなる情報は以下の著書に詳しい。清水弘美『特別活動でみんなと創る楽しい学校』小学館、2017年。

≪資料≫

自尊感情の向上（全国学力・学習状況調査、６年生対象）

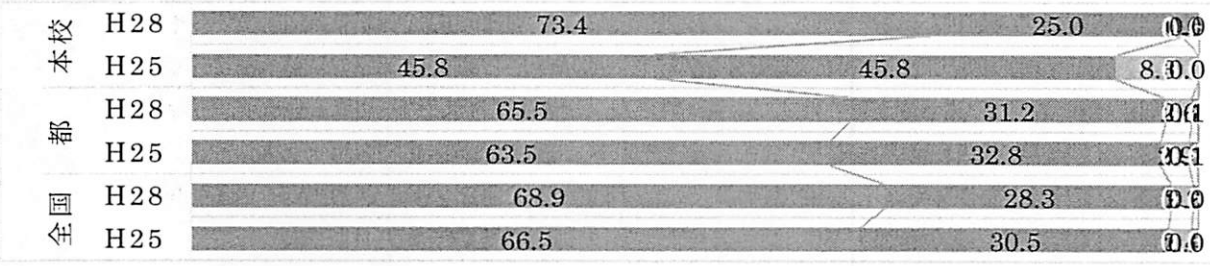


学校に行くのは楽しいと思う

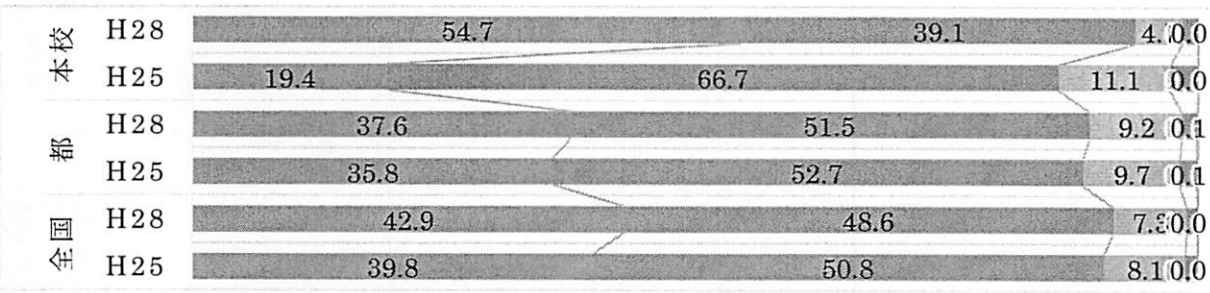
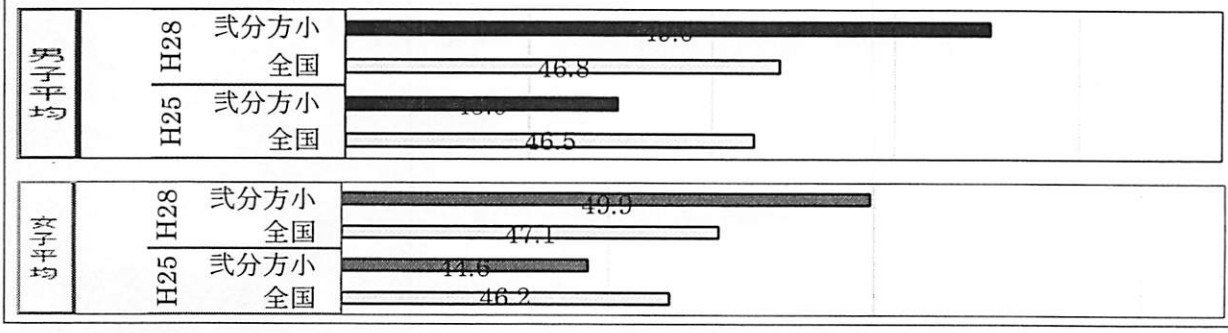


規範意識の向上

・友達との約束を守っている



・学校のきまりをまもっている



・体力向上（体力・運動能力・生活習慣同調査の体力合計点比較）